



SCE との統合 — 設定

ここでは、SCE 上での DHCP Lease Query LEG の設定方法と Command-Line Interface (CLI; コマンドラインインターフェイス) について説明します。

- [SCE 上での DHCP Lease Query LEG の設定 \(p.5-1\)](#)
- [DHCP Lease Query LEG CLI \(p.5-2\)](#)

SCE 上での DHCP Lease Query LEG の設定

SCE 上の DHCP Lease Query LEG は CLI を使用して設定されます。

DHCP Lease Query LEG CLI

- [CLIによる設定 \(p.5-2\)](#)
- [CLIによる表示 \(p.5-3\)](#)

CLIによる設定

DHCP Lease Query LEG の一般的な LEG 設定を行うには、CLI を使用します。

LEG をイネーブルにする場合：

```
SCE(config)# subscriber LEG dhcp-lease-query
```

LEG をディセーブルにする場合：

```
SCE(config)# no subscriber LEG dhcp-lease-query
```

DHCP サーバの IP アドレスを設定する場合（1 つまたは 2 つのアドレス）：

```
SCE(config)# subscriber LEG dhcp-lease-query servers STRING STRING
```

DHCP サーバをリセットする場合：

```
SCE(config)# no subscriber LEG dhcp-lease-query servers
```

`session_timeout` 設定変数を設定する場合（「[DHCP Lease Query LEG の設定](#)」[\[p.3-2\]](#)も参照）：

```
SCE(config)# subscriber LEG dhcp-lease-query session-timeout DECIMAL
```

`session_timeout` 変数をデフォルト値に設定する場合：

```
SCE(config)# default subscriber LEG dhcp-lease-query session_timeout
```

フェールオーバー基準設定変数によって、要求が連続して失敗（タイムアウト）し、フェールオーバーをトリガーするまでの回数が定義されます。サーバに障害が発生した場合クエリーには応答しないので、これらのクエリーはタイムアウトします。連続的にクエリーがタイムアウトした回数がカウントされ、このしきい値に達したときに、セカンダリサーバがアクティブになります。デフォルト値は3です。

`fail_over_criteria` を設定する場合：

```
SCE(config)# subscriber LEG dhcp-lease-query failover-criteria DECIMAL
```

`fail_over_criteria` 変数をデフォルト値に設定する場合：

```
SCE(config)# default subscriber LEG dhcp-lease-query failover-criteria
```

サブスライバ ID のフォーマットは、バイナリまたはストリングのいずれかに設定可能です。サブスライバ ID をバイナリに設定した場合、ASCII 16 進数ストリングに変換されたバイナリストリングを表します。ストリングに設定した場合、ASCII ストリングを表します。DHCP オプションがパケット内で検出されない場合に、IP をサブスライバ ID に設定するには、`ip-fallback` パラメータを使用します。

サブスライバ ID オプションを設定する場合：

```
SCE(config)# subscriber LEG dhcp-lease-query sub-id-option STRING binary|string
[ip-fallback]
```

例：

- subscriber LEG dhcp-lease-query sub-id-option 82:2 binary
この例では、サブスライバ ID に DHCP オプション 82:2 を使用し、タイプはバイナリです。オプションが検出されない場合、フォールバックは実行されません。
- subscriber LEG dhcp-lease-query sub-id-option 43:1 string ip-fallback
この例では、サブスライバ ID に DHCP オプション 32:1 を使用し、タイプはストリングです。DHCP オプションが検出されない場合、IP がサブスライバ ID として使用されます。

サブスライバ ID オプションをデフォルト値に設定する場合：

```
SCE(config)# default subscriber LEG dhcp-lease-query sub-id-option
```

ポリシー アソシエーションの場合、LEG は「[ポリシー アソシエーションの設定](#)」で説明されているのとまったく同じファイルを使用します。次の CLI を使用してコンフィギュレーション ファイルを設定してロードします（フルパスとファイル名を指定する必要があります）。

```
SCE(config)# subscriber LEG dhcp-lease-query package-association-file STRING
```

デフォルトのパッケージ アソシエーション コンフィギュレーションは、パッケージ情報を割り当てません。

コンフィギュレーションをデフォルトのコンフィギュレーション ファイルに戻す場合：

```
SCE(config)# default subscriber LEG dhcp-lease-query package-association-file
```

DHCP Lease Query LEG の全パラメータをデフォルトに設定するには、次の CLI を使用します。

```
SCE(config)# default subscriber LEG dhcp-lease-query
```

CLI による表示

LEG の全般的な設定を表示するには、次のコマンドを入力します。

```
SCE# show subscriber LEG dhcp-lease-query
```

LEG の統計カウンタを表示する場合：

```
SCE# show subscriber LEG dhcp-lease-query counters
```

LEG の統計カウンタをリセットする場合：

```
SCE# clear subscriber LEG dhcp-lease-query counters
```

